

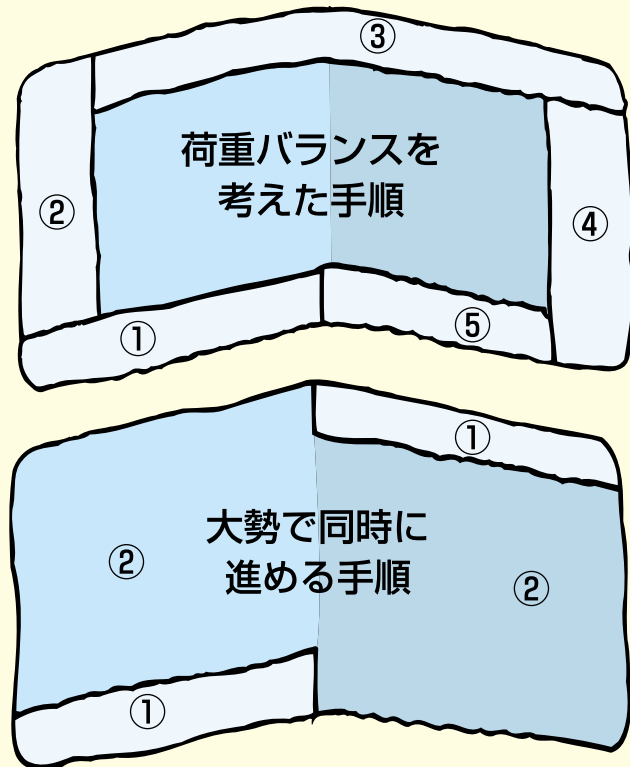
## 第六景 屋根の雪を下ろす その1 雪下ろしの進め方

### キーワードは「フェールセーフ」

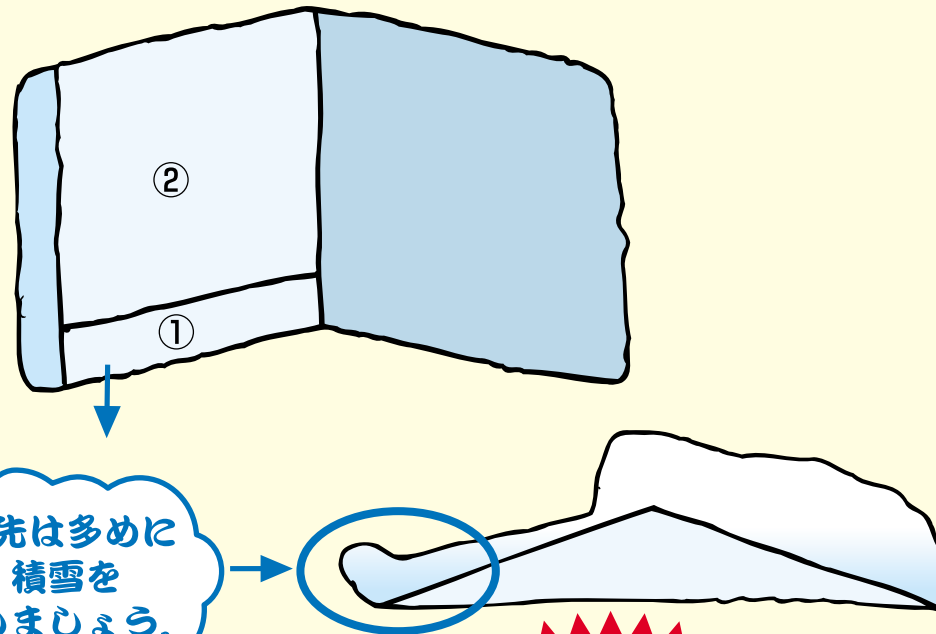
- 「もしも滑って転んだら・・・」と、転んでも転落しないように意識することが大切です。
- 常に、屋根の端を確認。雪庇を踏み抜くと転落します。
- 屋根にかかる荷重は数10トン。バランスに配慮した手順で下ろしてゆきます。

### 屋根雪を下ろす手順

#### 妻側に落とす場合



#### 軒側に落とす場合



**キケン!**

- 常に屋根の端（軒先）を確認しながら作業すること!
- 常に下に人や車がないか確認すること!

#### 下ろす先を工夫すると後が楽です。

- 家からなるべく遠く・玄関先・非常口・ガラス窓があるところには、なるべく下ろさないように。
- 灯油タンク周辺・プロパンガス周辺・煙突の周辺・給排気口の周辺など屋外に設置した衛生設備などの周りには、なるべく下ろさない。
- 上からは見えにくいので、下にいる人に確認してもらいましょう。

### ポイント 屋根の種類

- カワラ屋根
  - 滑りにくい。スコップやスノーダンプで傷つけないよう屋根の上の積雪をある程度(10~15cm)残すこと。
- トタン屋根
  - 滑りやすい。安全のために屋根の上の積雪を多めに(20~30cm)残すこと。
- 平屋根
  - 滑り落ちることはないが、屋根の端がわかりにくい。
  - パラペット、手すりなど付帯物が多い。
- かやぶき屋根
  - 傾斜がきつい。
  - 突然落下する恐れがあるので、普通上から下ろす。
- 落雪屋根
  - 雪下ろし不要だが、寒いと雪が滑らずにたまることもある。
  - 一般の人は、絶対に屋根に上がってはいけない。
  - 雪下ろしが必要になったら専門業者に依頼すること。

### 上級編 雪止めの種類

- 屋根の雪が滑り落ちないように、雪国の屋根には雪の滑り止めに付くはなりません。「雪止め」と呼ばれますが、地域によっては雪崩（ナデ）止めと呼ぶこともあります。

